兵庫・長尾沖田遺跡

1 所在地　兵庫県佐用郡佐用町長尾字沖田
2 調査期間　一九八三年（昭58）一二月～一九八四年（昭59）三月
3 発掘機関　兵庫県教育委員会
4 調査担当者　西口和彦・水口富夫
5 遺跡の種類　集落跡・寺院関連遺跡
6 遺跡の年代　弥生時代～平安時代中期
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、道路建設に先立つ事前発掘調査である。佐用町長尾の地は、山陽道から分かれた美作道が通り、また当地から岡山県勝田郡大原町をへて因幡国へ通じる古代交通上の重要地点である。

（佐用）

長尾沖田遺跡は、佐用川西岸の河岸段丘上に位置し、当段丘上には、条里制地割りが良く残っている。調査地点の北西約三〇〇mの地には、長尾廃寺があり、塔心礎と若干の礎石が存在する。長尾廃寺は未調査であるが、出土古瓦や礎石等から奈良時代前期（白鳳）創建の寺院であろうと考えられている。

木簡が出土した地点は、推定寺域から離れているが、かつて南東から北西（寺院の方向）に向って谷が入っていた所である。谷は、弥生式土器以降平安時代中期の須恵・土師器まで谷底部から順次層を成して堆積、埋没していた。木簡は奈良時代後期と考える層に包含され他に板状木材や木札状木片、瓦片等も多く出土した。これら遺物の出土・検出状況から当木簡等は上流の寺院の方から谷へ流入したものと考えている。またこの谷は、平安時代中頃には完全に埋没したと考えられ、谷を横断するように水路並びに畦が作られ、畦端の水路側には擁護の杭が打ち込まれていた。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「□守解　申進□部事　(193)×34×5　019

（西口和彦）